

LAW OFFICES
SUGHRUE, MION, ZINN, MACPEAK & SEAS, PLLC
2100 PENNSYLVANIA AVENUE, N.W.
WASHINGTON, DC 20037-3213
TELEPHONE (202) 293-7060
FACSIMILE (202) 293-7860

January 27, 1999



BOX PATENT APPLICATION
Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Re: Yoshikazu KOBAYASHI
INFORMATION TERMINAL CAPABLE OF ORIGINATING A CALL, METHOD
OF ORIGINATING A CALL AND RECORDING MEDIUM WHICH STORES THE
PROGRAM FOR ORIGINATING A CALL
Our Ref. Q52863

Dear Sir:

Attached hereto is the application identified above including 29 sheets of the specification, claims, 10 sheets of formal drawings, executed Assignment and PTO 1595 form, and executed Declaration of Power of Attorney.

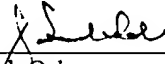
The Government filing fee is calculated as follows:

Total claims	<u>23</u> - 20	=	<u>3</u>	x	\$18.00	=	<u>\$54.00</u>
Independent claims	<u>6</u> - 3	=	<u>3</u>	x	\$78.00	=	<u>\$234.00</u>
Base Fee							<u>\$760.00</u>
TOTAL FILING FEE							\$1048.00
Recordation of Assignment							\$40.00
TOTAL FEE							\$1088.00

Checks for the statutory filing fee of \$1048.00 and Assignment recordation fee of \$40.00 are attached. You are also directed and authorized to charge or credit any difference or overpayment to Deposit Account No. 19-4880. The Commissioner is hereby authorized to charge any fees under 37 C.F.R. §§ 1.16 and 1.17 and any petitions for extension of time under 37 C.F.R. § 1.136 which may be required during the entire pendency of the application to Deposit Account No. 19-4880. A duplicate copy of this transmittal letter is attached.

Priority is claimed from January 28, 1998 based on Japanese Application No. 015705/1998. The priority document is enclosed herewith.

Respectfully submitted,
SUGHRUE, MION, ZINN,
MACPEAK & SEAS, PLLC
Attorneys for Applicant

By: 
J. Frank Osha
Registration No. 24, 625



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

January 27, 1999

Q 52863

1 of 1

U.S. P.
09/238502



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日

Date of Application:

1998年 1月28日

出願番号

Application Number:

平成10年特許願第015705号

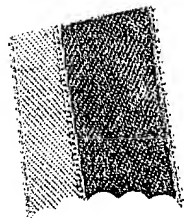
出願人

Applicant(s):

日本電気株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

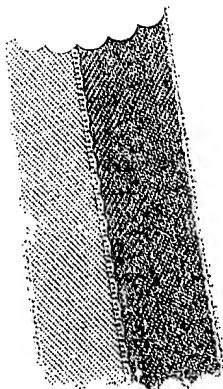
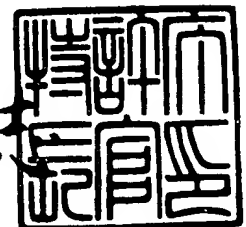
Best Available Copy



1998年10月30日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

山佐平



出証番号 出証特平10-3088777

【書類名】 特許願

【整理番号】 42006934

【提出日】 平成10年 1月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 15/00

【発明の名称】 電話発信を可能とする情報端末と、電話発信方法と、電話発信のためのプログラムを記録した記録媒体

【請求項の数】 18

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
 日本電気株式会社内

 【氏名】 小林 佳和

【特許出願人】

 【識別番号】 000004237

 【氏名又は名称】 日本電気株式会社

 【代表者】 金子 尚志

【代理人】

 【識別番号】 100082935

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 京本 直樹

 【電話番号】 03-3454-1111

【選任した代理人】

 【識別番号】 100082924

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 福田 修一

 【電話番号】 03-3454-1111

【選任した代理人】

 【識別番号】 100085268

 【弁理士】

【氏名又は名称】 河合 信明

【電話番号】 03-3454-1111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008279

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9115699

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電話発信を可能とする情報端末と、電話発信方法と、電話発信のためのプログラムを記録した記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末による電話発信方法において、

前記OSで起動されているウィンドウ画面上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶し、

記憶された前記文字情報から電話番号を抽出し、

抽出した電話番号によって回線に発信することを特徴とする電話発信方法。

【請求項2】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末による電話発信方法において、

電話発信を制御するための第1のウィンドウを表示し、

前記第1のウィンドウとは別に前記OSで起動され表示されている第2のウィンドウ上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶し、

記憶された前記文字情報から電話番号を抽出し、

抽出した前記電話番号を前記第1のウィンドウに表示し、

抽出した前記電話番号によって回線に発信することを特徴とする電話発信方法

【請求項3】 前記選択された文字情報は、前記OSで共通に使用される共通ワークエリアに記憶されることを特徴とする請求項1または2に記載された電話発信方法。

【請求項4】 前記選択された文字情報は、前記OSによる範囲指定によって選択され前記OSで共通に使用される共通ワークエリアに記憶されることを特徴とする請求項1または2に記載された電話発信方法。

【請求項5】 前記電話番号の抽出では、前記文字情報から数字に関連する以外の情報を削除して電話番号を抽出することを特徴とする請求項1または2に記載された電話発信方法。

【請求項6】 前記第1のウィンドウは、前記ディスプレイに表示される前

記複数のウィンドウの最上部に重ねて表示されることを特徴とする請求項2に記載された電話発信方法。

【請求項7】 前記第1のウィンドウは、さらに電話発信先を指定する発信キーを表示する電話画面を有し、前記情報端末が前記電話画面上の前記発信キーの操作を検出して電話番号を記憶し、記憶した電話番号で発信することを特徴とする請求項2に記載された電話発信方法。

【請求項8】 前記第1のウィンドウは、さらに過去の電話発信先を表示する履歴通話画面を有し、前記情報端末が前記履歴通話画面から前記電話発信先を選択し、選択した電話番号を記憶し、記憶した電話番号で発信することを特徴とする請求項2に記載された電話発信方法。

【請求項9】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム(OS)を有する情報端末において、

前記OSで起動されているウィンドウ画面上で選択された文字情報を記憶する手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する抽出手段と、
抽出された電話番号を回線への発信のために出力する手段とを含む電話発信が可能な情報端末。

【請求項10】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム(OS)を有する情報端末において、

電話発信を制御するための第1のウィンドウを表示するためのアプリケーションを実行する表示アプリケーション手段と、

前記第1のウィンドウとは別に前記OSで起動され表示されている第2のウィンドウ上で文字情報を選択する手段と、

選択された文字情報を記憶する手段と、

記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する抽出手段と、

抽出された前記電話番号を回線への発信のために出力する手段とを含む電話発信が可能な情報端末。

【請求項11】 前記情報端末は、さらに、前記出力手段から出力された前記電話番号によって回線に発信するよう制御する発信制御手段とを含む請求項9

または 10 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 12】 前記表示アプリケーション手段は、抽出された前記電話番号を前記第 1 のウィンドウに表示させることを特徴とする請求項 10 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 13】 前記抽出手段は、前記文字情報から数字に関連する以外の情報を削除して電話番号を抽出することを特徴とする請求項 9 または 10 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 14】 前記表示アプリケーション手段は、第 1 のウィンドウを、前記ディスプレイに表示される前記複数のウィンドウの最上部に重ねて表示することを特徴とする請求項 10 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 15】 前記出力手段は、抽出された前記電話番号の先頭に所定の番号を付加して出力することを特徴とする請求項 11 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 16】 前記表示アプリケーション手段は、抽出した前記電話番号に所定の文字列を付加して前記第 1 のウィンドウに表示させることを特徴とする請求項 10 に記載された電話発信が可能な情報端末。

【請求項 17】 前記表示アプリケーション手段が、前記第 1 のウィンドウをツールバー表示形態に変えるとき、前記抽出手段は、前記文字情報からの前記電話番号の抽出を行わないことを特徴とする請求項 10 に記載された情報端末。

【請求項 18】 コンピュータに、
電話発信を制御するための第 1 のウィンドウを表示する手順と、
前記第 1 のウィンドウとは別の第 2 のウィンドウ上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶する手順と、
記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する手順と、
抽出した電話番号を回線への発信のための出力する手順と、
を実行させるためのプログラムを記憶した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電話回線への発信が可能な情報端末に関し、特にウィンドウ画面を表示するためのオペレーションシステム（以下、OSと略称する）を有する情報端末と、その情報端末による電話発信方法と、ウィンドウ画面から電話発信を実行するためのプログラムを記録した記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、複数のプログラムによって処理された表示データをウィンドウによって表示するOSが存在する。たとえば、マイクロソフト社のWindows 95がそうである。

【0003】

このようなOSがインストールされたコンピュータのような情報端末は、電話発信のために電話回線との回線インタフェースを有するかモデムを介して回線に接続され、OSでウィンドウを表示させて電話通信を行うことが可能である。たとえば、図11に示すような、電話画面（ダイヤラという）をウィンドウで表示させ、その電話画面のテンキーや短縮ダイヤルボタンを、情報端末に接続するマウスでクリックすることにより電話番号を入力し、電話回線へ発信することが可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来は図11のような電話画面を表示させて、その電話画面の中で操作して電話発信するだけであった。このため、たとえば、ワープロソフトによる処理画面がウィンドウにより表示されているときに、オペレータがそのワープロウィンドウ画面中の電話番号の宛先に発信するには、図11の電話画面を表示し、その画面中のテンキーをマウス等によって操作してワープロウィンドウ画面の電話番号と同じ番号を入力しなければならず、操作が面倒であった。

【0005】

本発明の目的は、ウィンドウにより表示されている画面の文字情報から電話番号を直接に抽出し、抽出した番号で発信を実施できる電話発信方法およびその電

話発信が可能な情報端末を提供することにある。

【0006】

本発明の他の目的は、ウィンドウにより表示されている画面の文字情報から電話番号を直接に抽出し、抽出した番号で発信を実施できる電話発信プログラムを記録した記録媒体を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明による電話発信方法は、複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末による電話発信方法において、前記OSで起動されているウィンドウ画面上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶し、記憶された前記文字情報から電話番号を抽出し、抽出した電話番号によって回線に発信することを特徴とする。

【0008】

また、本発明による別の電話発信方法は、複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末による電話発信方法において、電話発信を制御するための第1のウィンドウを表示し、前記第1のウィンドウとは別に前記OSで起動され表示されている第2のウィンドウ上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶し、記憶された前記文字情報から電話番号を抽出し、抽出した前記電話番号を前記第1のウィンドウに表示し、抽出した前記電話番号によって回線に発信することを特徴とする。

【0009】

本発明による情報端末は、複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末において、前記OSで起動されているウィンドウ画面上で選択された文字情報を記憶する手段（図2の72）と、前記記憶手段に記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する抽出手段（図2の81）と、抽出された電話番号を回線への発信のために出力する手段（図2の81、図4の814）とを含むものである。その出力する手段は、発信制御を行う発信制御手段に接続してもよい。

【0010】

また、本発明による別の情報端末は、複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末において、電話発信を制御するための第1のウィンドウを表示するためのアプリケーションを実行する表示アプリケーション手段（図2の84）と、前記第1のウィンドウとは別に前記OSで起動され表示されている第2のウィンドウ上で文字情報を選択する手段（図2の71）と、選択された文字情報を記憶する手段（図2の71）と、記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する抽出手段（図2の81）と、抽出された前記電話番号によって回線への発信のために出力する手段（図2の81、図4の814）とを含むものである。

【0011】

さらに、本発明によれば、コンピュータ（図10の90）に、電話発信を制御するための第1のウィンドウを表示する手順と、前記第1のウィンドウとは別の第2のウィンドウ上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶する手順と、記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する手順と、抽出した電話番号を回線への発信のために出力する手順とを実行させるためのプログラムを記憶した記録媒体（図10の91）が得られる。

【0012】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照して詳細に説明する。

【0013】

図1は本発明の情報端末の実施の形態を示すブロック図である。図において、情報端末は、ディスプレイにウィンドウを表示させるオペレーティングシステム（以下、OSと略称する）を基本ソフトウェアとして有するパーソナルコンピュータのような情報処理端末である。

【0014】

その構成は、電話回線Lに接続する回線インタフェース1と、全体を制御する制御回路2と、制御部2に接続されるマウス3、キーボード4、表示メモリ5及びディスプレイ6と、回線インタフェース1に接続する電話機12とを有するものである。

【0015】

制御回路2は、ウィンドウ表示させる基本OS（例えばマイクロソフト社のWindows95）とその基本OSの基で起動するワープロ用OS（例えばマイクロソフト社のWord97）とを含む制御用OSを実行する制御用OS実行回路7と、本願発明の特徴である電話用OSを実行する電話用OS実行回路と、マウス3、キーボード4、表示メモリ5にそれぞれ接続する入出力インタフェース（I/O）9、10、11とを有する。

【0016】

電話用OS実行回路8の電話用OSは、制御用OS実行回路7の制御用OSの一部の制御機能を介して回線に発信できるよう構成されている。すなわち、電話用OS実行回路8は、制御用OS実行回路7の表示アプリケーションを制御し、表示メモリ5を経由してディスプレイ6に図7に示すような電話発信用ウィンドウ（第1のウィンドウ）100を表示させ、またマウス3またはキーボード4による操作によって任意のウィンドウ表示画面中から電話発信のための文字情報を抽出し、その文字情報から番号を分析し、回線インタフェース1に対して分析した番号によって電話発信するよう制御する。

【0017】

図1の情報端末の特徴とするところは、第1に、図7に示すようにディスプレイ6の画面に表示されているワープロ等のウィンドウ画面（第2のウィンドウ）110から番号を含む文字情報111を反転表示や枠による範囲指定によって抽出し、電話用OS実行回路8の制御により文字情報の中から番号のみを取り出して電話発信用ウィンドウ（第1のウィンドウ）100に表示させ、その表示させた番号によって電話回線Lに対し発信することにある。

【0018】

これにより、制御用OSの実行によって表示されているワープロ文書のウィンドウおよび他のウィンドウ画面中に表示されている任意の電話番号情報を、簡単な操作で抽出し自動的に発信できるシステムが構築され、電話キー画面を表示させて電話番号を入力する手間が省け、簡単に素早く発信できる。

【0019】

また、電話発信用ウィンドウ 100 を常にディスプレイ 6 の画面中にポップアップ表示（ウィンドウの重なりの一ばん上に表示させること）させて発信できるようにすることにより、電話発信用ウィンドウ 100 の操作性が向上する。

【0020】

また、第 2 に図 8 に示すように電話画面 120 をウィンドウで表示させてその電話画面のテンキー入力で発信させたり、第 3 に図 9 に示すように過去の通話履歴の画面 130 をウィンドウで表示させてその履歴電話番号をマウス 3 でクリックして発信する機能もそれぞれ同時に追加されていることである。

【0021】

次に図 1 の情報端末の制御回路の制御用 OS 実行回路 7 と電話用 OS 実行回路 8 及びその周辺の詳細構成について図 2 を参照して説明する。図 2 において、制御用 OS 実行回路 7 は、入力・表示アプリケーション部 71 と、共通ワークエリア 72 とを含む。入力アプリケーション部 71 は、マウス 3 及びキーボード 4 の入力アプリケーションと表示メモリ 5 の表示のための表示アプリケーションを実行する部分である。共通ワークエリア 72 は、ウィンドウで指定した命令と文字、数字等の情報とを記憶する部分で、制御回路 2 が共通に使用できる命令及び情報を記憶する。

【0022】

制御用 OS 実行回路 7 の制御用 OS には、入力・表示アプリケーション以外にも複数のアプリケーションが存在するが、ここでは、電話発信及び表示に必要な部分のみを示している。

【0023】

電話用 OS 実行回路 8 は、入力・表示アプリケーション部 71 および共通ワークエリア 72 を介して命令及び情報のやり取りを行う 4 つのアプリケーション部すなわち、電話番号分析アプリケーション部 81、テンキー発信アプリケーション部 82、履歴発信アプリケーション部 83 及び表示アプリケーション部 84 を有する。さらに、電話用 OS 実行回路 8 は、ワークエリア 85 とダイヤル記憶部 86 とを有する。

【0024】

電話番号分析アプリケーション部81は、共通ワークエリア72に格納された情報から文字情報を抽出し、さらにその文字情報から電話番号を分析しその電話番号で発信制御するためのアプリケーションを実行する回路である。ここで、共通ワークエリア72から読み出される情報は、図7のワープロウインドウ画面110（あるいはその他ウインドウの画面）をワープロ用OSの範囲指定等によって入力された文字情報111である。その文字情報111から抽出及び分析された電話番号は、その後、回線インタフェース1に通知されると共にダイヤル記憶部86の履歴ダイヤル領域88にダイヤル履歴情報として格納される。

【0025】

テンキー発信アプリケーション部82は、ディスプレイ6の画面に表示される電話画面120（図8）をマウス3で指示することによって入力された電話番号に基づいて発信制御を実行する。ここで、マウス3やキーボード4からの指示は、入力・表示アプリケーション部71から転送される。その指示により、図8の電話画面120からマウス3やキーボード4で指示された電話番号が、テンキー発信アプリケーション部82で発生、またはダイヤル記憶部86から読み出される。例えば、短縮ダイヤル時には、指示された短縮番号に対応するダイヤル番号がダイヤル記憶部86の短縮ダイヤル領域87から読み出され、さらに必要に応じて付加情報領域89から外線0発信番号等の付加情報が付加されて発信制御が実行される。

【0026】

履歴発信アプリケーション部83は、図9の通話履歴画面130をマウス3やキーボード4で指示することによって入力された電話番号に基づいて発信制御を実行する。マウス3やキーボード4からの指示は、入力・表示アプリケーション部71から転送される。その指示により、通話履歴画面130からマウス3やキーボード4で指示された電話番号は、履歴発信アプリケーション部83によってダイヤル記憶部86の履歴ダイヤル領域88から読み出されて発信制御が実行される。

【0027】

電話番号分析アプリケーション部81、テンキー発信アプリケーション部82

および履歴発信アプリケーション部83からの電話番号及び発信指示情報c1、c2及びc3は、回線インタフェース1に出力され、発信が行われる。

【0028】

表示アプリケーション部84は、図7、8および9の電話発信用ウィンドウ100、電話画面120および履歴情報画面130の表示制御及び電話発信用ウィンドウ100のツールバー表示制御を実行する回路である。

【0029】

ダイヤル記憶部86は、制御回路の電源が切れてもその内容が消失しない記憶回路で、ハードディスクやICメモリ、CDメモリなどである。またワークエリア85は、各アプリケーション部の実行中に使用されるRAM等のメモリ回路である。

【0030】

次に電話番号分析アプリケーション部81による発信動作について図3のフローチャートを参照して詳細に説明する。その説明にあたって図2と図4に示す電話番号分析アプリケーション部81の詳細回路とを併用して説明する。

【0031】

図7に示すディスプレイ画面中のワープロウィンドウ画面110でワープロ用OSを実行しているとき、画面中の任意の文字情報111をマウス3で範囲指定して選択する（ステップS1）。範囲指定された文字情報111は、「TEL03-542-1111」である。ここで、制御用OSは、範囲指定した表示メモリ5上の文字情報111を入力・表示アプリケーション部71により共通ワークエリア72に転送する（ステップS2）。

【0032】

次に、マウス3の右クリック（ステップS3）により、電話用OS実行回路8の電話番号分析アプリケーション部81が起動し、共通ワークエリア71に記憶された文字情報を読み出し（ステップS4）、図4に示すようにワークエリア85の入力データワークエリアに格納する。

【0033】

次に電話番号分析アプリケーション部81の文字判定部810（図4）は、文

字情報 1 1 1 に文字列が内在するか否かを判定する（ステップ S 5）。内在すれば、文字情報をワークエリア 8 5 の文字ワークエリアに転送する（ステップ S 6）。文字列が内在しなければ（つまり文字以外の部分を範囲指定したとすれば）、終了する。

【0034】

次に数字判定部 8 1 1 は、文字ワークエリア内の文字情報に全角または半角の数字があるか否かを判定する（ステップ S 7）。全角または半角の数字があれば、文字情報の中の全角または半角数字「0 3 5 4 2 1 1 1 1」のみ抽出し、ワークエリア 8 5 の数字ワークエリアに転送する（ステップ S 8）。なければ、終了する。

【0035】

次に全角半角変換部 8 1 2 は、数字ワークエリア内の数字情報が全角数字であることを判定し（ステップ S 9）、全角数字があれば、それを半角数字に変換し（ステップ S 10）、全て半角になった数字をワークエリア 8 5 の半角数字ワークエリアに転送する（ステップ S 11）。この半角変換は、図 7 の電話発信用ウィンドウ 100 の表示部 101 が、半角数字を表示するために必要な処理である。

【0036】

次に、番号表示制御部 8 1 3 は、半角数字ワークエリアに格納された半角数字を表示アプリケーション部 8 4 に転送し、これにより表示アプリケーション部 8 4 は、入力・表示アプリケーション部 7 1 を制御して図 5 の電話発信用ウィンドウ 100 の表示数字エリア 101 中に半角数字を表示させるよう表示メモリ 5 に表示データを書き込む。

【0037】

以上のように、ステップ S 1 から S 12 により図 5 に示すワープロウィンドウ画面 110 から文字情報 1 1 1 が抽出され、数字のみが電話番号として検出されてワークエリア 8 5 の半角数字ワークエリアに転送され、さらに表示アプリケーション部 8 4 にも転送されて電話発信用ウィンドウ 100 の中に表示される（ステップ S 12）。

【0038】

最後に、電話発信用ウィンドウ100の中の表示部101の電話番号が内線であるときには内線ボタン101を、また外線であるときには外線ボタン103をマウス3でクリックする。これにより、図4のダイヤル発信制御部814は、ワークエリア85の半角数字ワークエリアから電話番号「035421111」を読み出し、その番号で回線インタフェース1が電話回線Lに対して発信するよう制御する（ステップS13）。回線インタフェース1は、電話機12と電話回線L1とを接続して直流ループを設定した後、電話番号「035421111」による発信を実施し、通話が可能となる。

【0039】

さらに、ダイヤル発信制御部814は、発信した電話番号をダイヤル記憶部86の履歴ダイヤル記憶領域88に格納する。

【0040】

以上説明した電話番号分析アプリケーション部81による発信制御は、図7のワープロウィンドウ画面110に限らず、制御用OSによって表示される他のウィンドウ画面中から文字情報を抽出し電話番号を検出することで可能である。すなわち、入力・表示アプリケーション部71によって表示メモリ5を介して表示された全ての情報は、図3の動作手順に従って電話番号として検出され、発信可能である。

【0041】

これにより、電話キー画面をディスプレイ6に表示させて電話番号を入力する手間が省け、簡単に素早く発信できる。

【0042】

なお、図3のステップS13において、ダイヤル発信制御部814（図4）は、外線発信時に「0」ダイヤル番号を自動的に付加して発信するようにしても良い。

【0043】

また、図3のステップS12において、表示アプリケーション部84は、電話発信用ウィンドウ100に電話番号の他に文字列を表示するようにしても良い。

【0044】

この「0」ダイヤル番号及び文字列は、図2のダイヤル記憶部86の付加情報領域89に記憶され読み出されたもので、電話番号分析アプリケーション部81による発信制御時に電話番号と一緒に読み出され、電話番号に付加されて発信される。

【0045】

これにより、電話回線Lが公衆電話局への直通回線でない場合に、自動的に0発信することが可能であり、また、文字列を付加したときには、文字情報を転送することが可能となる。

【0046】

また、表示アプリケーション部84は、図7において、発信前に第1のウィンドウである電話発信用ウィンドウ100に文字情報111から抽出した電話番号を表示させても表示させなくても良い。

【0047】

また、図4の数字判定部811が文字情報111から判定する数字は、全角、半角に限らず、縦倍角、横倍角、4倍角などの大きさの数字でも良い。

【0048】

次に、テンキー発信アプリケーション部82による発信動作について図2及び図8を併用して説明する。

【0049】

図8に示すように、ディスプレイの表示画面中の電話発信用ウィンドウ100において、テンキーツールボタン104がマウス3によってクリックされると、電話画面120がウィンドウで表示される（ステップS20）。この電話画面120は、電話発信用ウィンドウ100の表示と同様に、表示アプリケーション部84で発生し、入力・表示アプリケーション部71を制御して電話画面120をウィンドウとして表示させる。

【0050】

電話画面120が表示されると、発信動作の制御は、テンキー発信アプリケーション部82に移行する（ステップS21）。ここで、電話画面120のテンキー120の番号がマウス3によってクリックされると（ステップS22）、その

操作が入力・表示アプリケーション部71からテンキー発信アプリケーション部82に知らされる。これにより、テンキー発信アプリケーション部82は、テンキー入力された電話番号をワークエリア85に格納すると共に、表示アプリケーション部84を制御して電話画面中の表示部122（図8）に電話番号を表示させる（ステップS23）。

【0051】

最後に電話画面120の内線発信ボタン123または外線発信ボタン124をマウス3でクリックすることにより、テンキー発信アプリケーション部82は、ワークエリア85に格納された電話番号で回線インタフェース1に対し発信を実行する（ステップS24）。

【0052】

電話画面120では複数の短縮番号キー125も表示されており、その短縮番号キー125のマウス3によるクリック（ステップS25）によって、テンキー発信アプリケーション部82は各短縮番号キーに対応してダイヤル記憶部86の短縮ダイヤル記憶領域87に格納された電話番号を読み出し（ステップS26）、その電話番号に発信するよう回線インタフェース1を制御する。

【0053】

なお、ダイヤル記憶部86への短縮ダイヤル番号の格納は、電話画面120の短縮登録126をクリックすることで可能である。すなわち、短縮登録126をクリックした後に短縮番号キー125をクリックしテンキー121から電話番号を入力することにより、テンキー発信アプリケーション部82は、短縮番号に対応する電話番号を短縮ダイヤル記憶領域87に格納する。

【0054】

以上のように、電話発信用ウィンドウ100から電話画面120を表示させて、その電話画面によるテンキー発信及び短縮ダイヤルが可能である。

【0055】

さらに、テンキー発信アプリケーション部82は、発信した電話番号をダイヤル記憶部86の履歴ダイヤル記憶領域88に格納する。

【0056】

次に、履歴発信アプリケーション部83による発信動作について図2及び図9を併用して説明する。

【0057】

図9に示すように、ディスプレイの表示画面中の電話発信用ウィンドウ100において、履歴通話ツールボタン105がマウス3によってクリックされると、履歴通話画面130がウィンドウで表示される（ステップS30）。この通話履歴画面130は、電話発信用ウィンドウ100の表示と同様に、表示アプリケーション部84で発生し、入力・表示アプリケーション部71を介してウィンドウとして表示される。

【0058】

通話履歴画面130が表示されると、発信動作の制御は、履歴発信アプリケーション部83に移行する（ステップS31）。ここで、通話履歴画面の中の通話履歴の1つをマウス3で選択する（ステップS32）と、履歴発信アプリケーション部83は、選択された通話履歴の相手先電話番号をダイヤル記憶部86の履歴ダイヤル記憶領域89から読み出す（ステップS33）。次に、履歴発信アプリケーション部83は、その電話番号に発信するよう回線インタフェース1を制御する（ステップS34）。

【0059】

以上のように、電話発信用ウィンドウ100から通話履歴画面130を表示させて、今まで発信した相手先に再び発信が可能である。

【0060】

なお、通話履歴を記憶する数は、幾つでも良い。

【0061】

本発明の実施の形態では、さらに図7から図9に示した電話発信用ウィンドウ100、電話画面120、通話履歴画面130をポップアップ表示させることが可能である。そのポップアップ表示の制御は、図2の表示アプリケーション部84が入力・表示アプリケーション部71にポップアップ表示の指示を出力することで実現される。これにより、電話発信用ウィンドウ100の操作性が向上し、電話番号の確認が容易となる。

【0062】

図2の電話番号分析アプリケーション部81は、ワープロウィンドウ画面あるいはその他のウィンドウ画面中の任意の文字情報を範囲指定してマウスを右クリックすることにより、その文字情報中の数字を電話番号として発信していたが、範囲指定した後、右クリックする代わりに左クリックあるいはキーボード4の特定のボタンを操作することによって、発信制御できるようにしても良い。

【0063】

また、制御用OS実行回路7による制御用OSによっては、範囲指定とマウスの右クリック動作がすでに制御用OSの別の命令のために存在する場合がある。この場合には、マウス3の特定の操作によって、範囲指定後に発信制御に制御が移行しないようにしても良い。たとえば、表示アプリケーション部84が図7の電話発信用ウィンドウ100に処理無効ボタン106を設けてそれをマウス3がクリックすることを検出したときに、電話番号分析アプリケーション部81は文字情報からの電話番号の抽出を停止し、発信制御処理を無効にしても良い。

【0064】

あるいは、ツールバー転送ボタン107を設け、これをマウス3でクリックすることで、ディスプレイ画面のツールバーに電話発信用ウィンドウ100を移したときに、電話番号分析アプリケーション部81は文字情報からの電話番号の抽出を停止し、発信制御処理を無効にしても良い。

【0065】

図10は、本発明の第2の実施の形態による情報端末の制御回路2を示すブロック図である。

【0066】

図10において、CPU90は、ROM91に格納されたプログラムに基づいて情報端末全体を制御するコンピュータであり、ワークエリア92は、プログラム実行中に使用される命令やデータの格納領域である。ダイヤル記憶部93は、図2のダイヤル記憶部86と同じ3つの記憶領域が定められている。I/O9、10、11は、図1と同一である。

【0067】

ROM 91 に記憶されたプログラムは、CPU 90 によって読み出される制御用 OS および電話用 OS である。ここで、制御用 OS の動作は、図 2 の制御用 OS 実行回路 7 で実行される処理に相当し、電話用 OS の動作は図 2 の電話用 OS 実行回路 8 の各アプリケーション部 81、82、83、84 が実行される処理に相当する。また、電話用 OS のプログラムは、インストールによって制御用 OS の実行プログラムの中に組み込まれる。

CPU 90 による制御用 OS が実行されているときに、表示メモリ 5 を介しディスプレイ 6 の画面に表示されている図 7 に示すワープロウインドウ画面（第 2 のウインドウ）110 から、文字情報 111 を反転表示や枠による範囲指定によって抽出する。これにより、範囲指定内の文字情報が CPU 90 の共通ワークエリアに格納される。その後、マウス 3 の右クリックが CPU 3 によって検出されると、CPU 90 は、図 2 の電話用 OS 実行回路 8 の電話番号分析アプリケーション部 81 と同様な制御により文字情報の中から数字情報のみを取り出して電話番号として表示メモリ 5 に出力する。これにより、図 7 の電話発信用ウインドウ（第 1 のウインドウ）100 の表示部 101 に抽出された電話番号が表示される。また、CPU 90 は、その表示した電話番号によって電話回線 L に対し発信するよう回線インタフェース 1 を制御する。

【0068】

以上の制御の他に、CPU 90 は、ROM 91 に格納されたプログラムにより図 8 に示すように電話画面 120 をウインドウで表示させてその電話画面のテンキー入力で発信させたり、図 9 に示すように過去の通話履歴の画面 130 をウインドウで表示させてその履歴電話番号をマウス 3 でクリックして発信する制御も実行する。

【0069】

本発明の実施の形態は、以上説明したものに限定されるものではない。たとえば、図 1 の回線インタフェース 1 は、電話機 12 との接続を行うためのモデムであっても良い。また、回線インタフェース 1 は、電話回線 L の捕捉を行う捕捉回路を持たないダイヤルトーンセンダーでも良い。この場合、ダイヤルトーンは、図 1 の電話機 12 の送話器に送信し、電話機 1 で回線を捕捉させ、さらに電話機

12を経由して電話回線Lへダイヤルトーンを送出するようにしても良い。このように本発明では、回線インタフェースの回路形態を限定するものではない。

【0070】

また、情報端末は、ウィンドウを表示可能なOSを有するものであれば、コンピュータに限らず、FAX、携帯電話装置などの他の通信端末でもよい。

【0071】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、制御用OSの実行によって表示されているワープロ文書のウィンドウおよび他のウィンドウ画面中に表示されている任意の情報を簡単な操作で抽出し、その中の数字情報を検出して電話番号として自動的に発信できるシステムが構築され、電話画面を表示させてその画面中で電話番号を入力する手間が省け、簡単に素早く発信できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の情報端末の実施の形態を示す概略ブロック図である。

【図2】

図1の情報端末の制御回路及びその周辺の詳細ブロック図である。

【図3】

図2の中の電話番号分析アプリケーション部の動作を示すフローチャートである。

【図4】

図2の中の電話番号分析アプリケーション部の詳細構成を示すブロック図である。

【図5】

図2の中のテンキー発信アプリケーション部の動作を示すフローチャートである。

【図6】

図2の中の履歴発信アプリケーション部の動作を示すフローチャートである。

【図7】

図 2 中の電話番号分析アプリケーション部が動作中のディスプレイ画面を示す図である。

【図 8】

図 2 中のテンキー発信アプリケーション部が動作中のディスプレイ画面を示す図である。

【図 9】

図 2 中の履歴発信アプリケーション部が動作中のディスプレイ画面を示す図である。

【図 10】

本発明の情報端末の第 2 の実施の形態における制御回路を示すブロック図である。

【図 11】

従来の情報端末により表示される電話画面を示す図である。

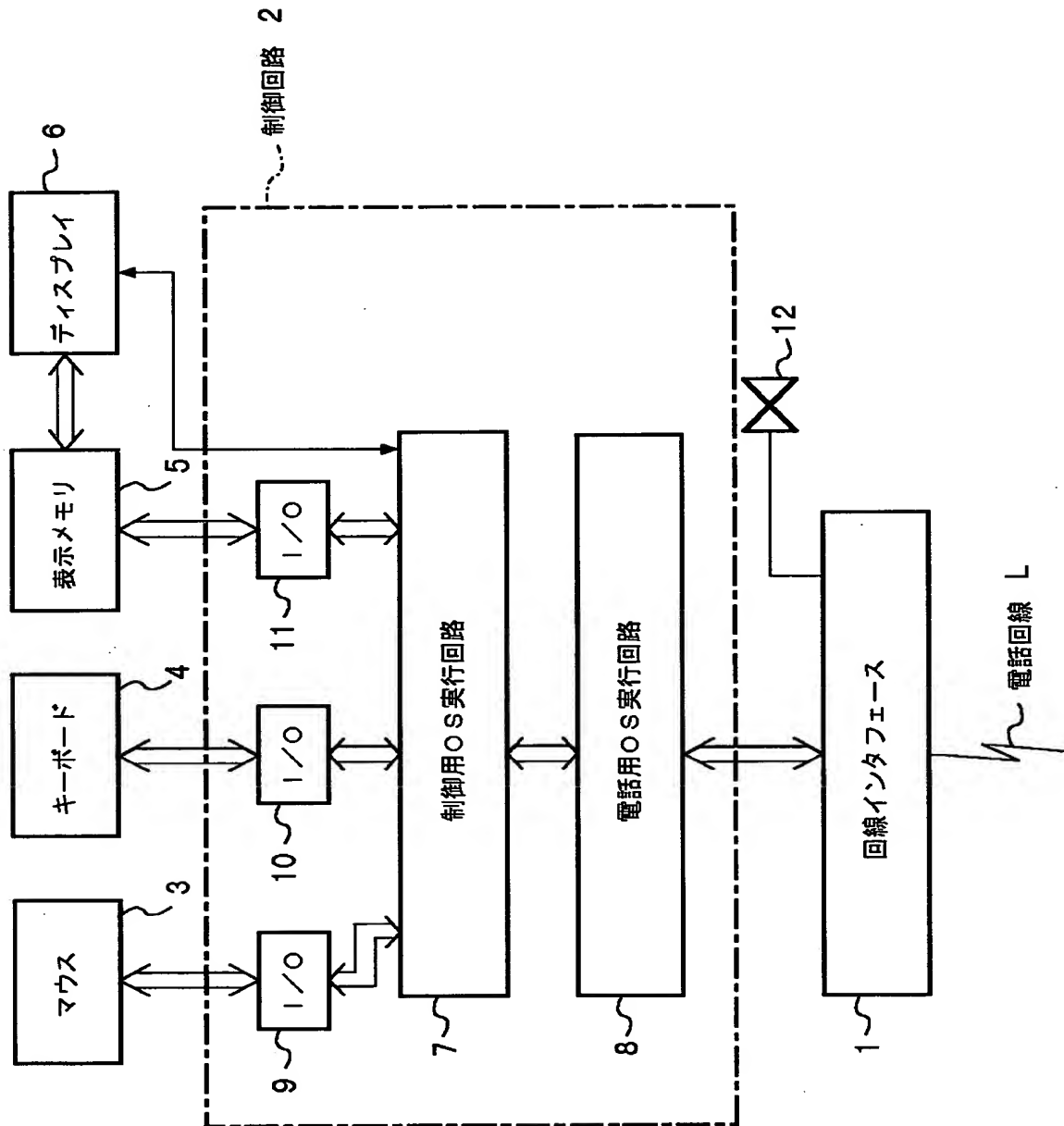
【符号の説明】

- 1 回線インタフェース
- 2 制御回路
- 3 マウス
- 4 キーボード
- 5 表示メモリ
- 6 ディスプレイ
- 7 制御用 OS 実行回路
- 8 電話用 OS 実行回路
- 9 I/O
- 10 I/O
- 11 I/O
- 71 入力・表示アプリケーション部
- 72 共通ワークエリア
- 81 電話番号分析アプリケーション部
- 82 テンキー発信アプリケーション部

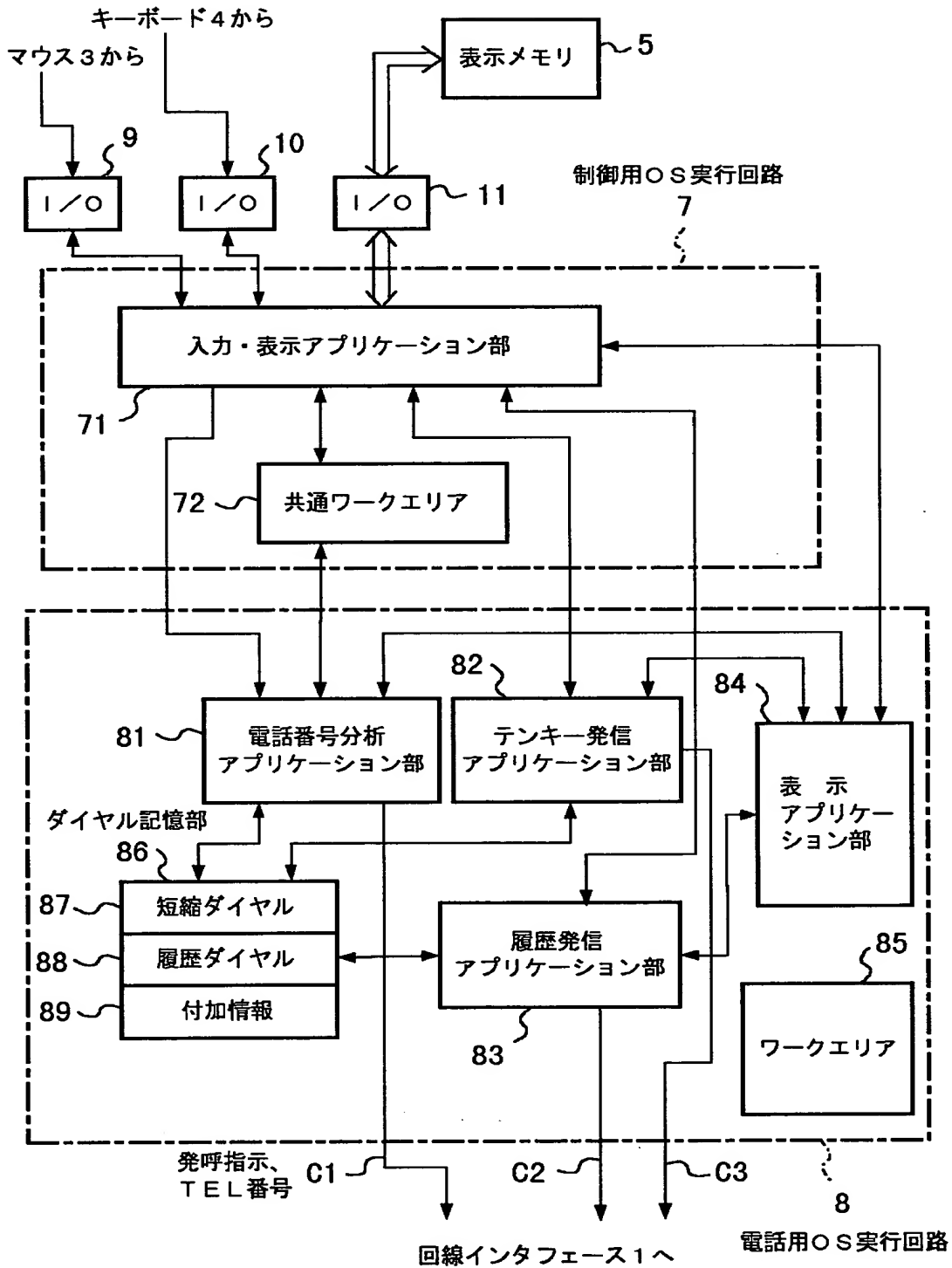
- 83 履歴発信アプリケーション部
- 84 表示アプリケーション部
- 85 ワークエリア
- 86 ダイアル記憶部

【書類名】 図面

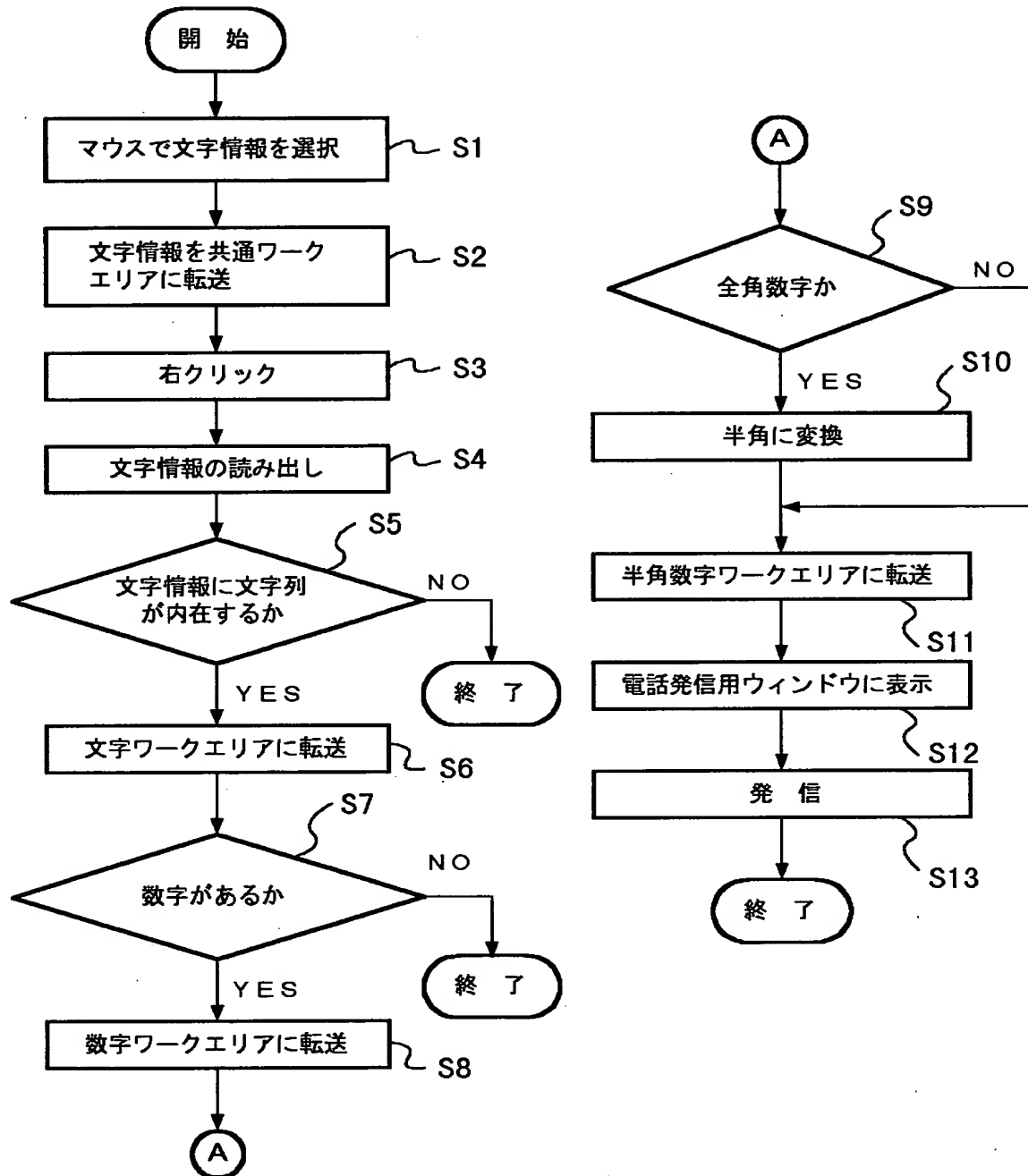
【図1】



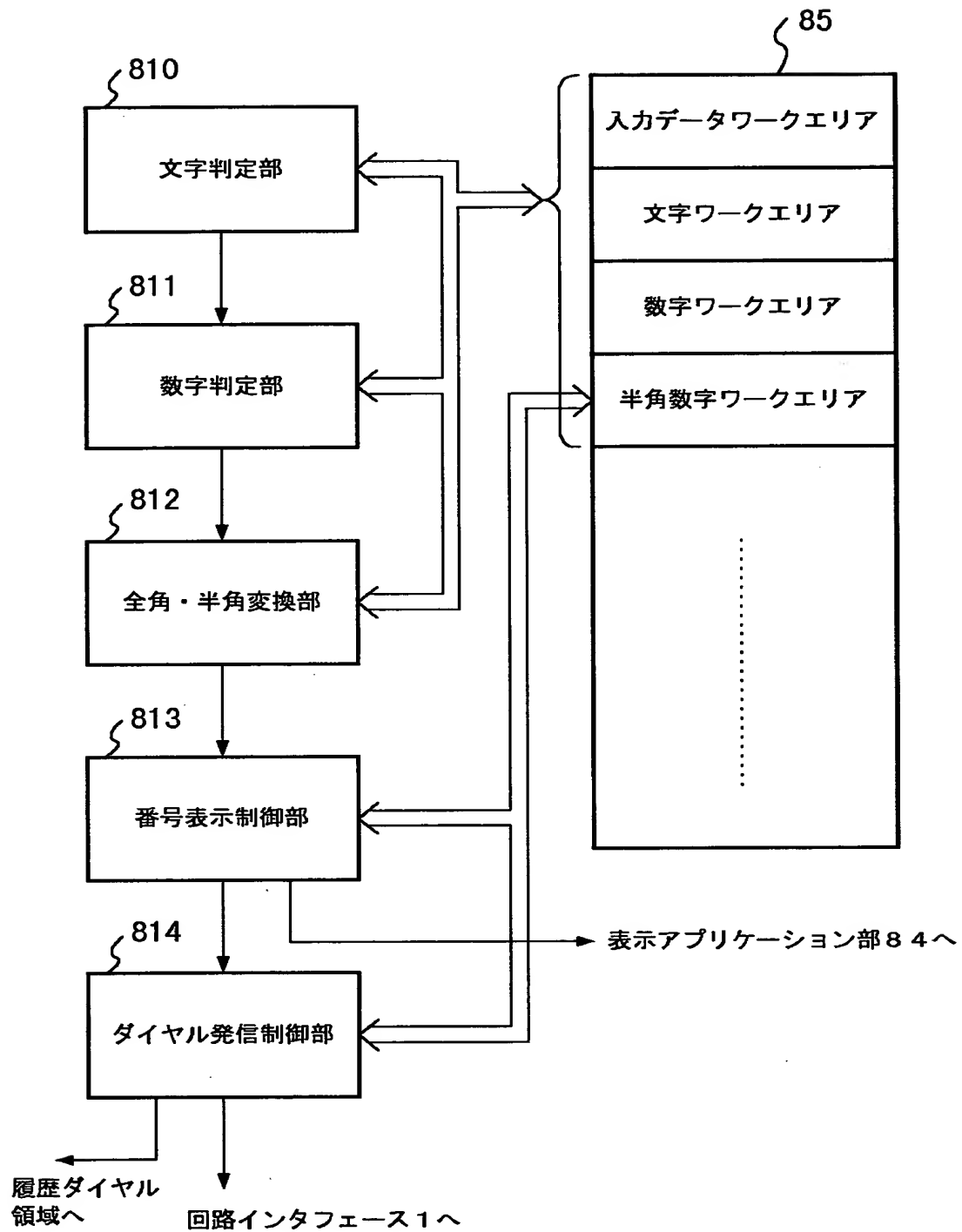
【図 2】



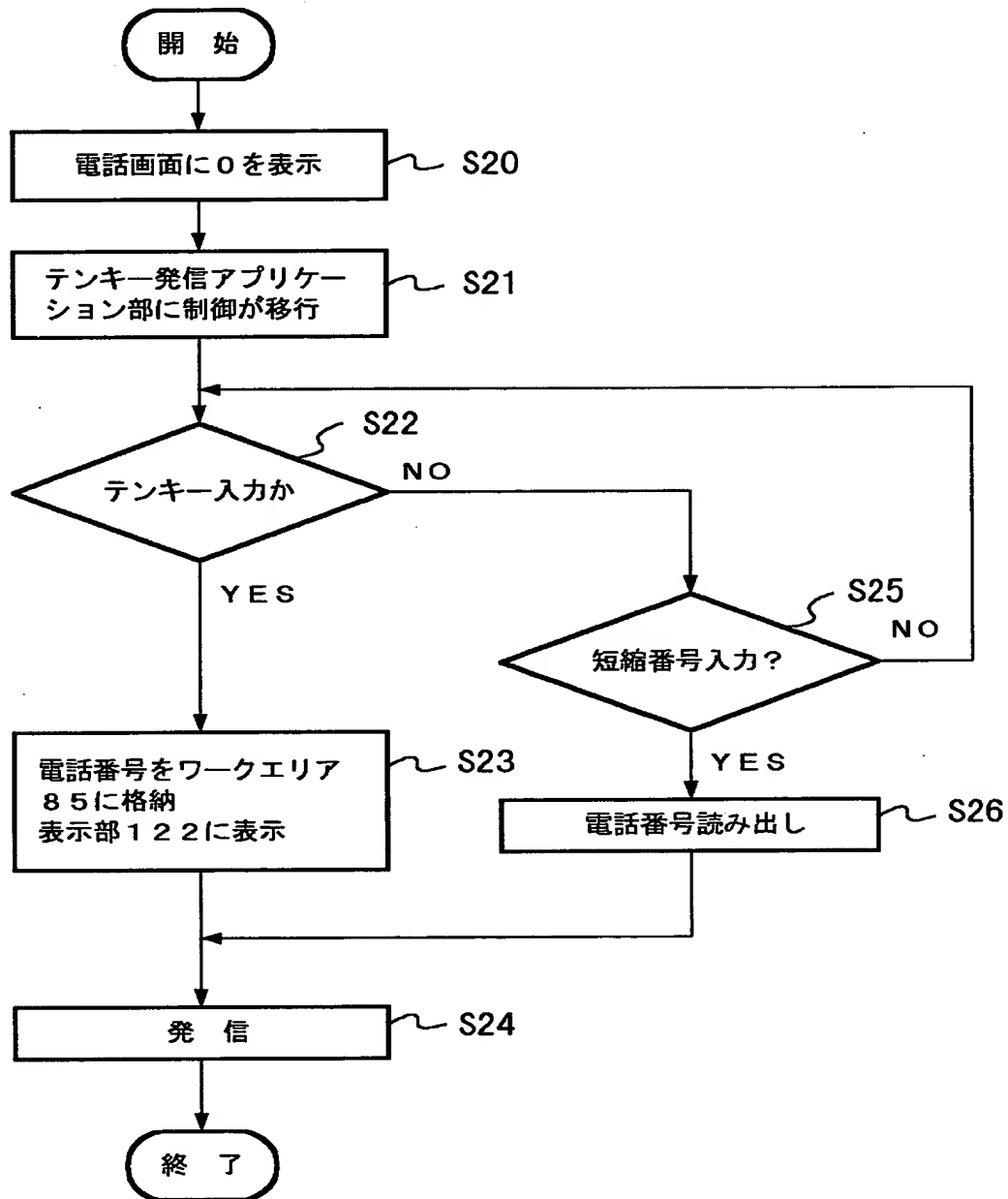
【図3】



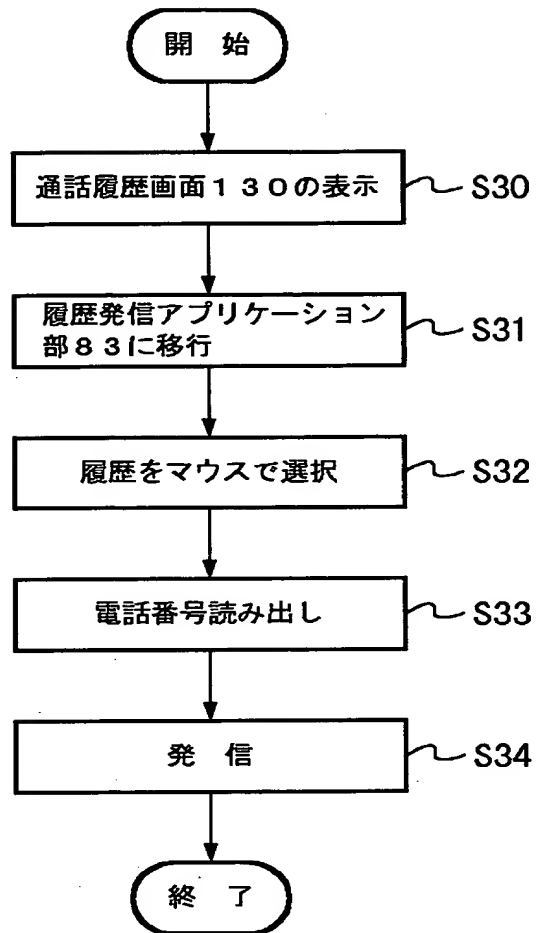
【図 4】



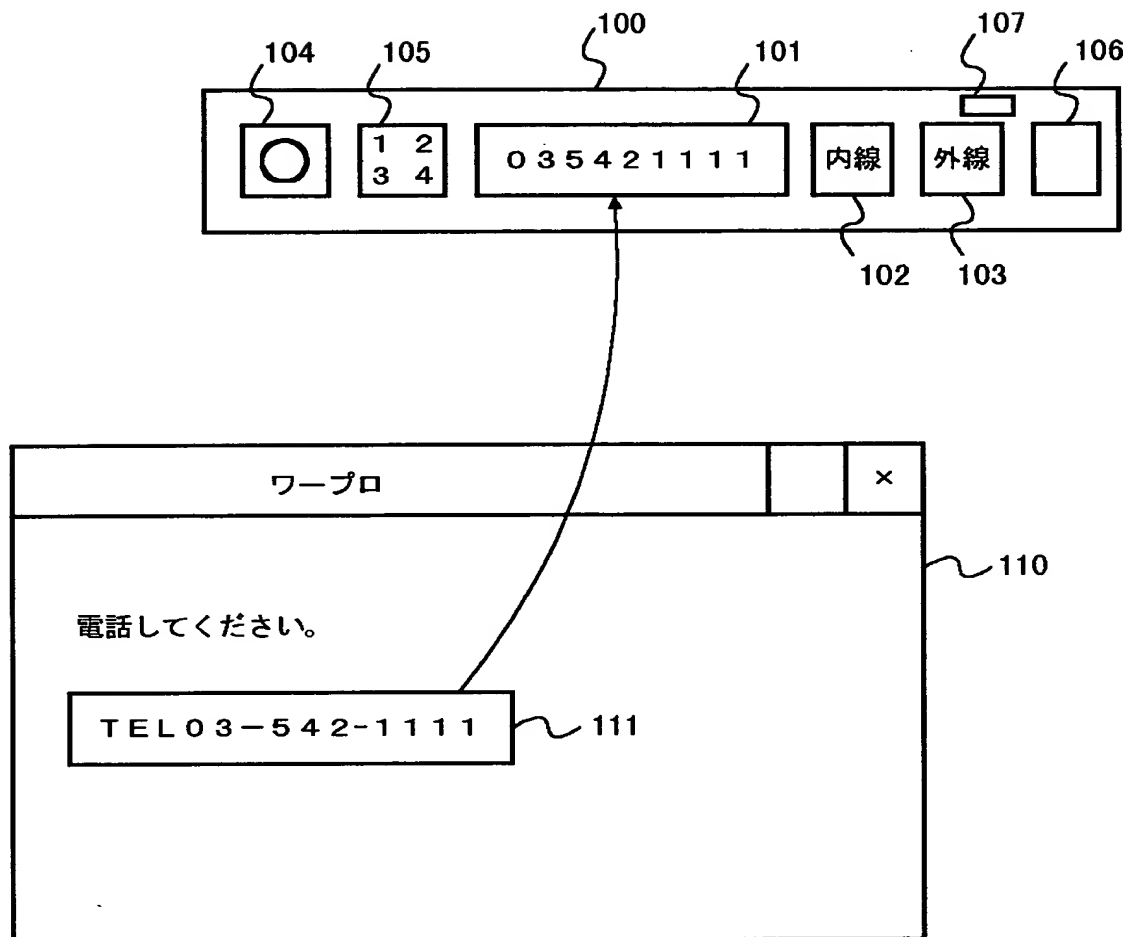
【図 5】



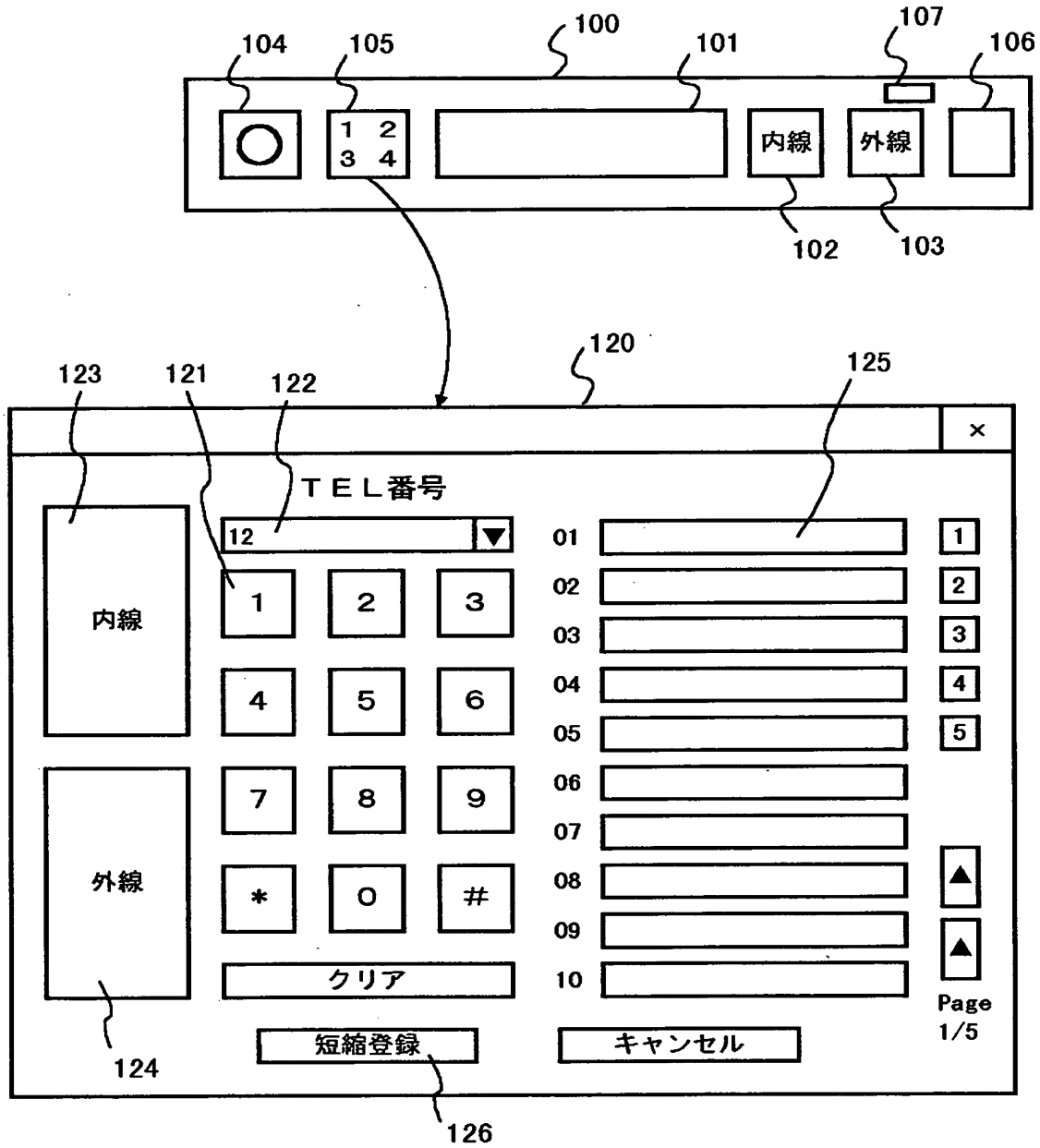
【図 6】



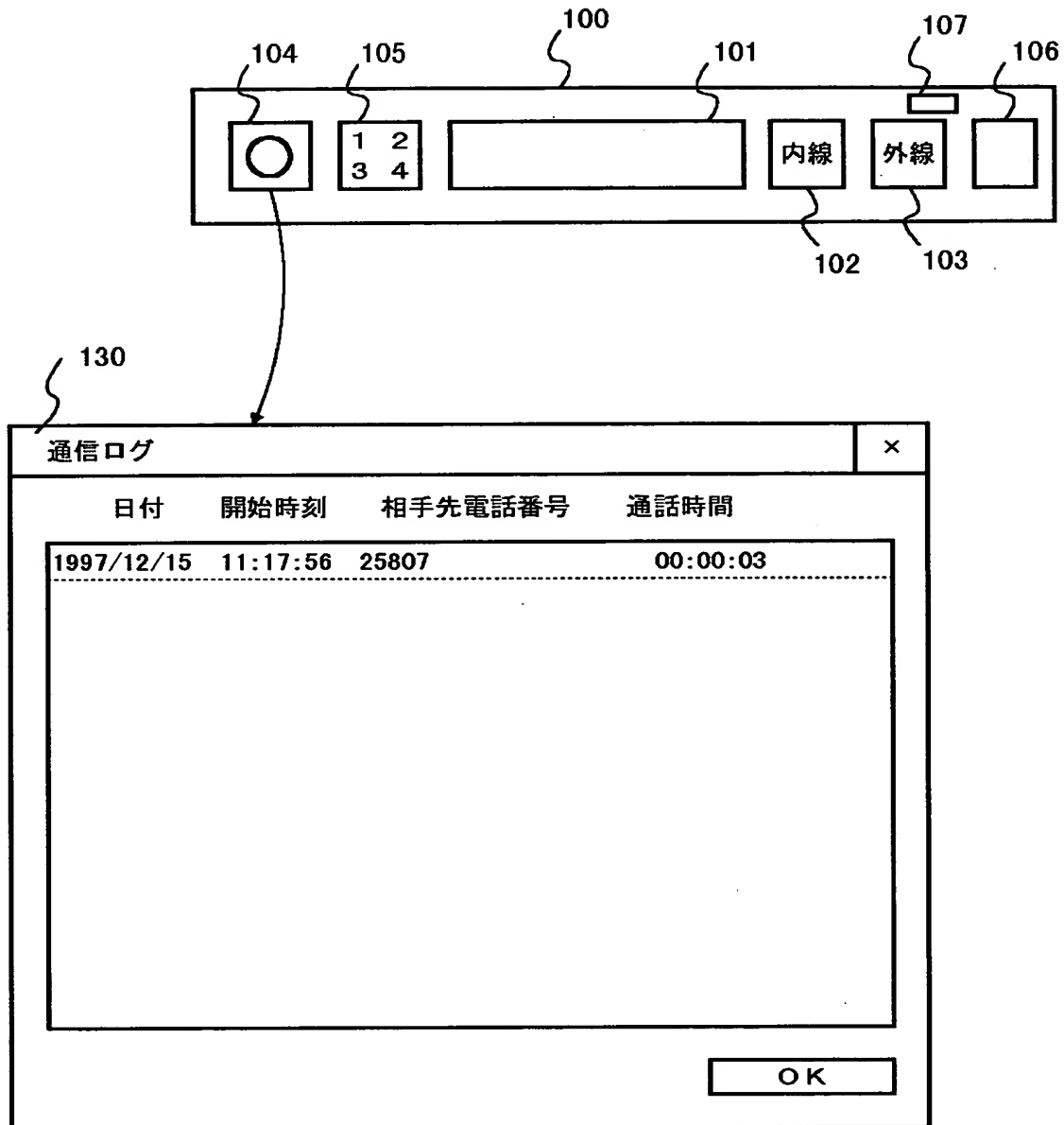
【図 7】



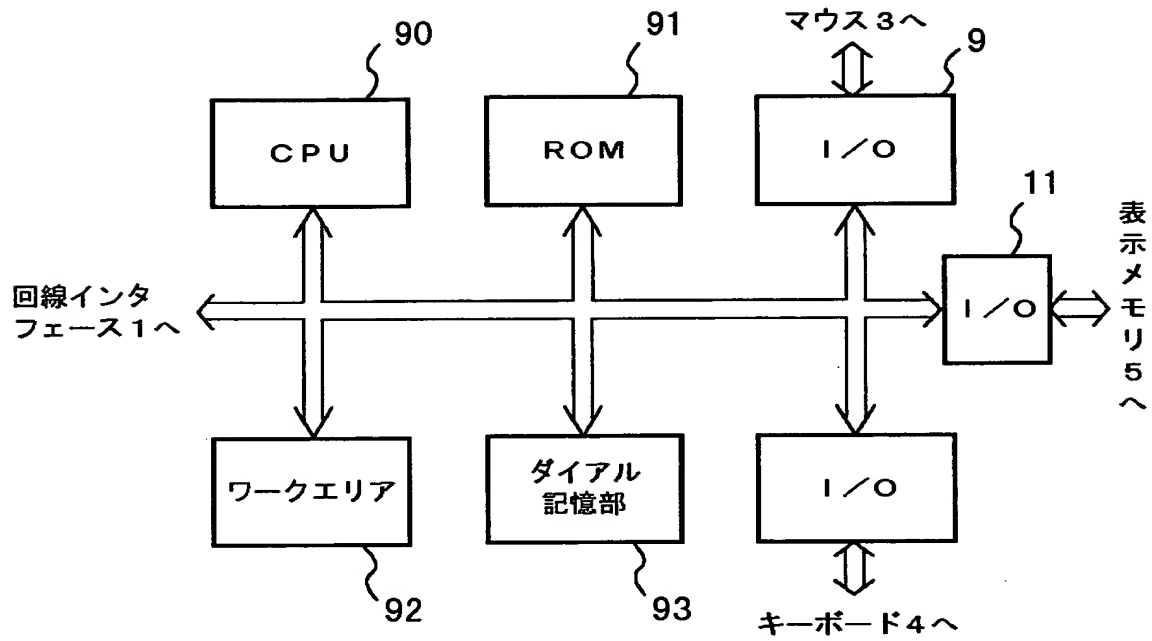
【図 8】



【図 9】



【図10】



【図11】

			x	
<div>033411111</div>			<div>登録</div>	
			短縮番号	
1	2	3		
4	5	6		
7	8	9		
*	0	#		

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 情報端末において、ウィンドウにより表示されている画面から電話番号を直接に抽出し、抽出した番号で発信を実施できるようにする。

【解決手段】 制御用OS実行回路7によりワープロ用OSを実行中にディスプレイ6の画面に表示されているワープロ等のウィンドウ画面（第2のウィンドウ）から番号を含む文字情報111を反転表示や枠による範囲指定によって抽出し、電話用OS実行回路8の制御により文字情報の中から番号のみを取り出して電話発信用ウィンドウ（第1のウィンドウ）に表示させ、その表示させた番号によって電話回線Lに対し発信する。

【選択図】 図2

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】
【識別番号】 000004237
【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目7番1号
【氏名又は名称】 日本電気株式会社
【代理人】 申請人
【識別番号】 100082935
【住所又は居所】 東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内
【氏名又は名称】 京本 直樹
【選任した代理人】
【識別番号】 100082924
【住所又は居所】 東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内
【氏名又は名称】 福田 修一
【選任した代理人】
【識別番号】 100085268
【住所又は居所】 東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内
【氏名又は名称】 河合 信明

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004237]

1. 変更年月日	1990年 8月29日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区芝五丁目7番1号
氏 名	日本電気株式会社